

【地域の概要】

- 町内の耕地面積は約1,140ha 寺内地区の耕地面積は約22ha（田21ha 畑0.8ha） うち担い手集積面積は約14ha（田13ha 畑0.6ha） 集積率 田64% 畑75%
令和元年度 耕地面積は約22ha（田21ha 畑0.6ha） うち担い手集積面積は約12ha（田11ha 畑0.5ha）
集積率 田55% 畑83%
- 地区の農地は平地と中山間地が混在し、水稻中心の水田農業を中心に中山間地では畑地での果樹栽培が行われている。
- 個人の担い手や農事組合法人への集約化が徐々に進んでいる。

取組開始前の状況や課題

- 農業従事者の高齢化や後継者不足、町外在住の農地所有者の増加による遊休農地が増加傾向である。
- 長年放置されている農地が増えており、保全すること自体が難しくなっている農地が増えている。これに伴い、雑草の繁茂による害虫の発生、有害鳥獣の隠れ家になるなど、周囲の農地の環境に悪影響を与えている。



雑草木除去前

取組内容

- 大野町による「荒廃農地等利活用促進事業」及び揖斐農林事務所による「農地イキイキ再生週間」の合同事業として、地域の農業委員、農地利用最適化推進委員、農林事務所、土地改良区、町、農業委員会事務局から20名が参加し、約10aの遊休農地の解消および地域の担い手への利用権設定に繋がった。



雑草木除去後

今後の展開と方向性

- 今後、他地区においても地域の担い手による耕作が見込める遊休農地で同様の取り組みを行い、遊休農地の解消に努めていきたい。
- 遊休農地について、再生利用が困難な農地に区分された農地については、現況に応じた非農地判断を行い、解消する農地を明確化していく。